

⑪ PICS 対策・生活の質改善検討委員会 研究活動報告

1) 国内研究

- i) 本邦の診療現場における post-intensive care syndrome (PICS) の実態調査 (担当者:河合 佑亮、一二三亭)

サマリー: 診療現場における PICS の実態調査(web 調査)を 2019 年 4 月 8 日から 4 月 22 日に実施し、日本集中治療医学会会員 453 名から回答を得た。結果、PICS や ABCDEF バンドルの認識度は約 6 割であった。実践している PICS 介入では、早期リハビリテーションが 92% であった。ICU 患者の退室時あるいは退院時の身体・認知・精神機能障害、QOL の評価は約 1 割程度にとどまっていた。また、PICS 外来や PICS ラウンドを全ての患者で行っていると回答した割合は 1%未満であった。

進行状況: 委員会報告として論文掲載済み(日集中医誌 2019;26:467-75.)、論文(3-iv 参照)。

- ii) 新型コロナウイルス感染症に伴う集中治療後症候群の研究: COVID-PICS Study (担当: 畠山淳司、中村謙介)

サマリー: 人工呼吸管理を必要とした重症新型コロナウイルス感染症患者の長期予後については、不明な点が多い。本研究の目的は、重症新型コロナウイルス感染症に罹患した患者を対象に、集中治療室退室 6 ヶ月後、1 年後、2 年後の身体機能、認知機能、メンタルヘルス、生活の質をアンケート調査し、後遺症の発症率などを調べることである。

進行状況: 集中治療室退室半年後の結果解析中

- iii) 集中治療室重症患者の PICS 発生に関する調査研究 (担当: 飯田有輝)

サマリー: ICU を退室した重症患者では長期的に身体機能や精神機能、メンタルヘルスが障害される PICS が問題となることが多い。PICS における 3 つのドメインが相互に影響を及ぼすかはあまり知られていない。本研究では、退院時における ICU-AW の合併が、退院 3 か月後の精神機能や心的ストレスならびに日常生活活動にどのような影響を及ぼすか調査を行う。

進行状況: Japanese Intensive Care Research Group (JICRG)・日本集中治療医学会学会主導共同研究推進会議に申請中

- iv) 本邦の診療現場における ICU 退室後のフォローアップに関する実態調査(担当者:井上茂 亮、河合佑亮)

サマリー: PICS の予防・回復のためには ICU 内での対策はもとより、ICU 退室後の継続した対策が重要である。本調査では、日本集中治療医学会会員を対象に、PICS の予防・改善や評価等を目的または目的の一部として行う ICU 退室後のフォローアップ(ICU 退室後患者への病床訪問や PICS 外来の実施等)の現状と課題等に関する web 調査を行う。

進行状況: Japanese Intensive Care Research Group (JICRG)の承認を得た。Web 調査実施に向けて、実施時期や調査票の最終確認・調整中。

v) 本邦のプライマリ・ケア領域における PICS の実態調査(担当:隅田英憲、井上茂亮)

サマリー:PICS 対策は、急性期医療に携わっている医療従事者だけで解決可能な問題ではなく、退院後の PICS 発症の有無や PICS への継続的なケア・フォロー、患者家族の状況も把握しやすいと考えるプライマリ・ケア領域との連携が重要である。本調査は、日本におけるプライマリ・ケア領域での PICS の現状を明らかにするため日本プライマリ・ケア連合学会の会員(全職種)の方を対象とした Web アンケート調査を日本プライマリ・ケア連合学会と共同で実施した。

進行状況:2020 年 9 月～12 月に実施。論文作成中。

2) 国際研究

i) 集中治療室に入室した新型コロナウイルス(COVID-19)患者が受けている ICU ケアの実態を明らかにする国際アンケート調査: ISIC Study (担当:劉啓文)

サマリー:新型コロナウイルスの影響(徹底した厳格な感染予防対策、コロナ患者急増による ICU への業務負担増)は、今まで行っていた患者に有益な ICU ケアの実施を困難なものにしている可能性がある。患者に有益なことがこれまでの報告でわかっており、かつ様々なガイドラインがその実施を推奨しているエビデンスに基づく ICU ケア(例えば、鎮痛・鎮静・せん妄・リハビリテーション・家族ケアを含む ABCDEF バンドルや栄養療法)の実施状況を調査し、何がその実施を妨げているのか、どんな要素があると ICU ケアは行えるのかを調査するために、オンライン国際アンケート調査を行った。結果、ABCDEF バンドルなどのエビデンスに基づく ICU ケアの実施率は非常に低いことが明らかとなった。プロトコールの整備や COVID-19 専有 ICU ベッド数の調整などがエビデンスに基づく ICU ケア実施の重要な因子である可能性を示した。

進行状況:2020 年 6 月 3 日・7 月 1 日に実施し、論文(3-v 参照)発表済み。

3) 論文・執筆活動

i) 集中治療症候群(PICS)の病態と対策-集中治療の現場が変わる PICS とは 疫学・病態生理・リスクを中心に

井上 茂亮, 畠山 淳司, 一二三 亨, 西田 修

日本医事新報 (4967) 20 – 24, 2019 年 7 月

ii) 集中治療症候群(PICS)の病態と対策-集中治療の現場が変わる PICS にどう向き合うか : 看護ケアと終末期・PICS-F について

河合 佑亮, 西田 修, 宇都宮 明美, 山川 一馬

日本医事新報 (4967) 26 – 31, 2019 年 7 月

iii) 集中治療症候群(PICS)の病態と対策-集中治療の現場が変わる PICS の対策と今後の展望

畠山 淳司, 飯田 有輝, 井上 茂亮, 剣持 雄二, 中村 謙介

日本医事新報 (4967) 32 – 37, 2019 年 7 月

iv) 本邦の診療現場における post-intensive care syndrome (PICS) の実態調査

日本集中治療医学会 PICS 対策・生活の質改善検討委員会

日本集中治療医学会雑誌 2019 年 26 巻 6 号 p. 467-475

DOI: https://doi.org/10.3918/jsicm.26_467

v) ABCDEF Bundle and Supportive ICU Practices for Patients With Coronavirus Disease 2019 Infection: An International Point Prevalence Study

Keibun Liu, Kensuke Nakamura, Hajime Katsukawa, Shigeaki Inoue, Osamu Nishida, et al.

Crit Care Explor. 2021;3(3):e0353. DOI: 10.1097/CCE.0000000000000353.

vi) Post-intensive care syndrome: its pathophysiology, prevention, and future directions

Shigeaki Inoue, Junji Hatakeyama, Yutaka Kondo, Toru Hifumi, Hideaki Sakuramoto, Tatsuya Kawasaki, Shunsuke Taito, Kensuke Nakamura, Takeshi Unoki, Yusuke Kawai, Yuji Kenmotsu, Masafumi Saito, Kazuma Yamakawa, Osamu Nishida

Acute Med Surg. 2019;6(3):233-246. doi: 10.1002/ams2.415.

日本集中治療医学会

PICS 対策・生活の質改善検討委員会